議　第３４号
令和３年(２０２１年)　４月１４日提出

熊本市指定有形民俗文化財の指定について

「万日塔」を熊本市指定有形民俗文化財に指定したいので議決を求める。

熊本市教育長　遠藤　洋路

（提出理由）
　熊本市文化財保護条例（昭和４２年３月２７日条例第１９号）第２２条第１項の規定及び熊本市教育委員会教育長事務委任等規則（昭和２７年１１月１４日教委規則第６号）第１条第１１号の規定に基づき熊本市指定有形民俗文化財に指定するものである。
　これがこの議案を提出する理由である。

市指定民俗文化財への申請一覧

資料NO	1
指定区分	民俗文化財
種別	有形民俗文化財
名称	万日塔
ふりがな	まんにちとう
員数	3基
所在地	熊本市西区春日2丁目地内
所有者	春日校区11町内自治会
町指定年月日	なし
備考	熊本地震により倒壊し、一部破損した。令和2年9月修復完了

熊本市文化財保護委員会における答申
（文化財の市指定有形民俗文化財新規指定について）
開催日時　令和３年（２０２１年）３月９日（火）９時００分開催

① 万日塔（まんにちとう）

西区春日の万日山の麓に所在する３基の石塔である。それぞれの石塔は常念仏を一万日間達成した記念に作られており、石塔の銘文からは僧侶だけでなく、熊本城下町一帯の町人が建立に参加していたことがわかる。万日山は古くは阿弥陀寺山と呼ばれていたが、常念仏と石塔の建立が評判となった結果万日という地名となるまでになった。

以上のように、万日塔は現在の地名の由来になった石塔であり、当時の宗教行事への町人の協力の在り方を示す貴重な文化財であり熊本市指定有形民俗文化財に指定するのが妥当である。

（諮問概要）

平成 28 年熊本地震で被害を受けた未指定文化財のうち、後世に残すべき価値のある文化財について、新たに市指定の文化財として申請するものである。

令和２年１１月２０日

熊本市教育委員会　様

住所　熊本市西区春日[redacted]

氏名　春日校区１１町内自治会

[redacted]

文化財の熊本市指定について（申請）

このことについて、私どもの所有する文化財を熊本市民俗文化財（有形民俗文化財）に指定くださるよう、別添書類を添えて申請します。

規則様式第１号

令和２年１１月２０日

熊本市教育委員会　様

住所　熊本市西区春日[redacted]

氏名　春日校区１１町内自治会

[redacted]

私の所有する下記文化財を熊本市文化財保護条例第２２条の規定により、熊本市指定民俗文化財(有形民俗文化財)に指定されることに同意します。

記

１　種別

民俗文化財　(有形民俗文化財)

２　名称

万日塔(まんにちとう)(３基)

分　類	民俗文化財	種　類	有形民俗文化財
名　称（ふりがな）	万日塔（まんにちとう）		
員　数	３基		
所在地	熊本県熊本市西区春日		
所有者	住所　熊本県熊本市西区春日 氏名　春日校区自治会第 11 町内自治会		
管　理 責任者	住所　熊本県熊本市西区春日 氏名　春日校区自治会第 11 町内自治会		
文書の年代 または時代	天和４年(1684 年)(一万日塔) 宝永８年(1711 年)(二萬日塔) 享保２１年(1736 年)(三萬日塔)		
指定申請の理由	万日塔は熊本市西区春日の万日山の麓、浄土宗来迎院の東側に広がる墓地の一角に所在する３基の石塔である。 この石塔は『肥後國誌』によると、万治２年(1659 年)に阿弥陀寺(現来迎院)６世法蓮社行故忍譽上人によって開かれた如意庵という小寺院があり、元禄年間から「日數一万日晝夜常念佛ヲ唱シ」ていたため、如意庵周辺を万日と称するようになったとされている。そして、常念仏が一万日間を達成した記念に建てられたのが万日塔である。万日塔は３基あり、一万日ごとに建立されている。石塔は３基でそれぞれが一万日間なので、１基あたり約 27 年、合計３万日で約 80 年間にわたって常念仏が行われていたことがわかる。 万日山は古くは長谷山や阿弥陀寺山などと呼ばれていたが、現在万日山と呼ぶのは如意庵で行われた常念仏と万日塔の建立が評判となり、広く民衆に受け入れられたからこそである。それぞれの万日塔各面の中心には、切り薬研彫で「南無阿弥陀仏」などの文字が大きく彫られた下に歴代の和尚や一門の僧侶に加え、多くの町人の名前が刻まれている。町人の中には藩の御用商人を務めた「市原屋」や「布屋」といった熊本城下町の有力町人の名前が刻まれており、それぞれの町人の拠点も新坪井や京町、古町など城下町一帯に広がっている。また、近世前中期の屋号や町人名はほとんど判明しておらず、近世後期につながる商家がわかる貴重な資料でもある。このことから、常念仏には僧侶だけでなく、城下町一帯の多くの町民も行事に参加し、石塔建立の費用を出資していたと考えられ、当時の念仏信仰の在り方の一片を示す貴重な資料である。二万日塔・三万日塔になると町人の名前がみられるのは、災害や大火、飢饉などが続き、人々が仏法の庇護を求めたためであろう。 常念仏を記念した石塔は全国に見られるが、一寺院の常念仏と石塔が城下町一帯の広い地域の町人を巻き込み、後に地名にまでなることは非常に珍しいことである。 以上のように、万日塔は現在の地名の由来になった石塔であり、当時の宗教行事への町人の協力の在り方を示す貴重な文化財であり熊本市指定有形民俗文化財に指定すべきと考える。		
その他	平成 28 年熊本地震によって３基とも転倒したが、土地は旧春日村の共有地であり所有者不明の状態であった。しかし、春日校区自治会第 11 町内自治会が所有者として名乗りを上げ、地元の宝、文化財として令和２年に熊本県の平成２８年熊本地震被災文化財復旧復興基金を用いて修復を実施した。		

写真１　万日塔　東から
（左から三万日塔、二万日塔、一万日塔）

写真２　万日塔　東から
（左から一万日塔、二万日塔、三万日塔）

一万日塔銘文

東面

三界萬霑有無縁等

南面

南無阿彌陀佛

西面

壹萬日大廻向

皆天和四甲子暦

三月十五日

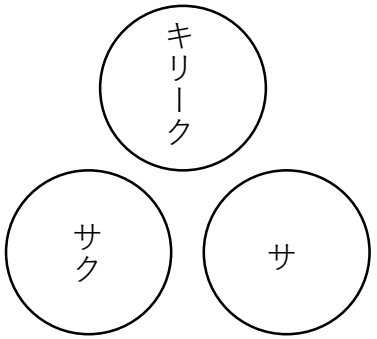
源蓮社空譽上人大和尚

願主　専譽安求比丘敬白

結衆

行譽了心
心譽眞生
託譽憶入
心譽安入
徳譽常念
方譽西順
願譽想入
浄譽西求

北面



南無阿彌陀佛

二万日塔銘文

北面

サク

南無阿彌陀佛(種字)

道場資衛□

丁子屋　松音
市原屋　了徳
河内屋　西入
丸屋　道□
□□屋　了喜
舛屋　宗壽
二文字屋　浄平□
砂糖屋　壽徳
會津屋　忠助

西面

キリーク

當庵念佛二萬日大廻向

蓮華會衆

寶永八辛卯禩

唱導師性蓮社盡譽上人　融阿和尚

三月十五日

願主　念譽行純昴生比丘

順誉了故
方誉西順
光誉□□
往誉□蓮
放誉即信
西誉即入
香誉頓入
圓誉民因
信誉浄誓

南面

サ

南無阿彌陀佛

卷譽道味信士
道譽香味信士
圓譽宗安信士
正譽浄普信士
大譽浄味信士

□□屋　九右衛門
御酒屋　安右衛門
伊勢屋　助三郎
□屋　四郎兵衛
丁子屋　喜兵衛
布屋　庄三郎
嶋原屋　孫助
□□屋　傳右衛門
豊後屋　孫兵衛
□□屋　武右衛門
□□□　□□□

東面

バン

廻施功徳普潤無差
法界万霶同生安樂

□誉□□信士　布屋　甚□
法誉□□信士　市原屋　惣七郎
忍誉□□信士　丸屋　惣四郎
教誉□□信士　□木屋　久左衛門
真誉□□信士　伊勢屋　仁左衛門
□誉□□信士　小倉屋　新右衛門
□誉源正信士　山□屋　又四郎
□誉□□信士　兵庫屋　喜兵衛
□誉□□信士　枡屋　仁兵衛
放誉□□信士　佃屋　善兵衛

三万日塔銘文

北面

キリーク

享保二十一丙辰年　導師長蓮社増譽上人　教譽順也

當山念佛三萬日大廻向

三月十有五莫　願主相蓮社實譽上人　載譽松運

□誉順□
西誉如念
方譽西入
香誉蓮□
相誉慈春
白誉蓮教
安誉白心
浄誉法入
蓮誉運心
心誉法運
頓誉円入

西面

サ

南無阿彌陀佛

子ノ字屋　傳衛門
長﨑屋　善九朗

油屋　忠三郎
綿屋　次郎左衛門
久屋　八左衛門
角屋　伊左衛門
丁子屋　勘衛門
田□□屋　儀助
問屋　彦三郎
魚屋　伊平次
山炭屋　長衛門
山鹿屋　又助
布屋　捻左衛門

南面

バン

廻施功徳普潤無差
法界万霮同生安樂

市原屋　捻七郎
同　捻次郎
同　喜平次
大坂屋　弥□衛門
同　七兵衛
□□□屋　九衛門
酢屋　太郎衛門
灰屋　平蔵
八百屋　重衛門
□屋　権七
明□屋　□衛門

山炭屋　□吉
嶋原屋　久次□
□屋　善七
呉服町　伊衛門
同　半□郎
萬屋　宇平次
□屋　捻衛門
吉田屋　彦三郎
銅屋　清衛門
俵屋　善三郎
土佐屋　平左衛門

東面

サク

南無阿彌陀佛(種字)

市原屋　了徳
小倉屋　一慶
塩屋　正安
山炭屋　道壽
鍛冶屋　浄深
伊勢屋　浄哉
糀屋　覚揺
森本喜八
中嶌又文
塩屋　捻三郎
御酒屋　安衛門